
狼さんと狩人さん

未五月 悠

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

狼さんと狩人さん

【Nコード】

N3532F

【作者名】

未五月 悠

【あらすじ】

赤頭巾ちゃんのパロディ。狼と狩人の話。

私は、足元に転がる赤頭巾ちゃんを見て小さく微笑んだ。

こんな子、食べる気なんてない。おばあさんだって食べたいなんて思えない。

私が食べたいのは、きつともう一人だけ。狂った狂った独占欲。狼の聴覚が、ドア一枚先の音を拾う。来てくれた。口元が歪むのが自分でもわかる。

音を立てて開かれたドア。逆光の中男が私を見る。

「狼め！ 今度こそはもう悪事をできねえようにしてやる！」

駄目だ笑顔を抑えきれない。私は笑う。幸せそうに、そして恐らく残忍に。

男が銃を構える前に立ち上がる。ベッドのスプリングで跳ね、床に着地。

「やあ狩人さん、久しぶり。なにか私に御用かな？」

「優雅に御用かななんて言っただけで逃げたらどうだ！ 撃ち殺すぞ！」

「それは怖いな」

狩人さんの銃が火を吹く。床に這いつくばり避ける。

狩猟用の銃はもつと遠距離を撃つためのものだから、狭い家の中なら四つ足の獣のほうが有利。

銃口が下がる。

「人前に出てくるな」

銃を下ろして狩人さんは言う。

「嫌だよ」

私は笑った。

嫌だよ。無理だよ。

何で私が騒ぎを起こすか知ってる？ 何で私が逃げないで待ってるか知ってる？ 何で私が人を食べないか知ってる？

狩人さんに抱きついた。重なっただ心臓が早い鼓動を刻む。首筋に歯を押し付ける。

「貴方に会えなくなるぐらいなら、いつそこで喰い殺してしまおうか」

END

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3532f/>

狼さんと狩人さん

2011年10月3日16時12分発行